

▽ 池宮城 尚也 教授 IKEMIYAGI, Naoya



学 科： 産業情報学科
 担当科目： 基礎数学, 経済数学, 経済原論, 金融経済論
 国際金融論, ファイナンシャルエコノミクス, 基礎演習
 専門演習, 卒業論文演習

学歴等のプロフィール

①【主要学歴】②【学位】③【所属学会】④【主要な社会的活動】

- ① 神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得
- ② 修士(経済学) 神戸大学
- ③ 日本金融学会, アジア市場経済学会, 沖縄経済学会, 神戸大学金融研究会
- ④ 2008年～2015年 沖縄県信用保証協会外部評価委員
 2014年 日本金融学会 2014年度秋季大会プログラム委員
 2017年 日本金融学会 2017年度秋季大会プログラム委員

教育活動等

主な教育活動	年月日	摘要
1. 教育・方法の実践例		
1) 基礎数学・経済数学	2017年4月～2018年2月	2017年度, 前・後学期, 1年次, 一般講義, 専門科目。 数学の習熟度が出身校で異なることを考慮し, 学習内容の説明や教材プリントの作成に工夫をした。
2) 経済原論 I・II	2017年4月～2018年2月	2017年度, 前・後学期, 1年次, 一般講義, 専門科目。 初学者にとって難解な経済学を理解するために, 学習対象が, 身の周りの何処のことなのか, 受講生に具体的にイメージさせる様, 努めた。
3) 金融経済論	2017年4月～2017年8月	2017年度, 前学期, 2年次, 一般講義, 専門科目。 身近な金融行動を例にするとところから

4) 国際金融論	2017 年 10 月～2018 年 2 月	<p>解説をはじめ、実生活に役立つ金融論の講義を目指した。</p> <p>2017 年度、後学期、2 年次、一般講義、専門科目。</p> <p>外国為替レートが決定する様々な仕組みを主に説明し、実生活に役立つ国際金融論の講義を目指した。</p>
5) ファイナンシャルエコノミクス I・II	2017 年 4 月～2018 年 2 月	<p>2017 年度、前・後学期、3 年次、実習講義、専門科目。</p> <p>ファイナンスが実生活の「貯める・借りる」を考える様々な計算であることを常にイメージすることで、Excel 実習内容が実生活と関わりがあることを意識させた。</p>
5) 専門演習基礎	2017 年 10 月～2018 年 2 月	<p>2017 年度、後学期、演習、専門科目。</p> <p>計量経済分析の手法を、できるだけ数式を使わずに説明し、理解が得られるように工夫した。</p>
6) 専門演習 I・II	2017 年 4 月～2018 年 2 月	<p>2017 年度、前・後学期、演習、専門科目。</p> <p>Excel を利用した計量経済分析に習熟するだけでなく、金融経済論の学習に興味を持ち続けられる様、工夫した。</p>
7) 卒業論文演習 I・II	2017 年 4 月～2018 年 2 月	<p>2017 年度、前・後学期、演習、専門科目。</p> <p>問題意識をもって仮説をたてるための資料選び・読解に時間をかけた後、Excel 分析を進めて卒業研究の報告原稿を作成する指導をした。</p>
8) 基礎演習 II	2017 年 10 月～2018 年 2 月	<p>2017 年度、後学期、演習、専門科目。</p> <p>国(県)民経済計算のデータを利用し、Excel 分析の基本とマクロ経済学の基礎が学べるように工夫した。</p>

<p>2. 作成した教科書, 教材, 参考書</p> <p>1) 経済数学における教材の作成</p> <p>2)ファイナンシャルエコノミクス I・IIにおける教材の作成</p>	<p>2017年10月～2018年2月</p> <p>2007年4月～2018年2月</p>	<p>教科書の利用が半期の講義に適しな いため, 講義の展開計画から学習内容を精選して教材プリントを作成した。</p> <p>一般のファイナンスの教科書とは異なる内容を実習するため, 諸教科書・諸データを参照し, 実習用の教材を作成した。</p>
<p>3. 学生支援活動</p> <p>1) 学習支援 履修指導</p> <p>4) サークル・部活動</p> <p>5. 教育改善活動(FD)など</p> <p>1) 2017年年度授業評価アンケート</p>	<p>2011年</p> <p>2005年～2017年</p> <p>2017年</p>	<p>16単位未満修得学生の指導:3名</p> <p>空手道部顧問</p> <p>「板書が早く, 説明を聞くのが困難」という指摘があった。受講生のノート記述状況を観察しながら説明を進めるよう, 改善を試みた。</p>

研究業績等

【主要論文及び主要著書】

<p>【主要論文】</p> <p>[1]「非伝統的金融政策の日米比較:世界金融危機後の政策効果」沖縄国際大学『産業総合研究』, 第25号, pp.19-30, 2017年。</p> <p>[2]「日本経済におけるIS-LM関係:Cointegrated VARによる検証」沖縄国際大学『産業総合研究』, 第24号, pp.1-14, 2016年。</p> <p>[3]「量的緩和政策期の物価動向とマネーの役割」沖縄国際大学『産業総合研究』, 第20号, pp.67-78, 2012年。</p> <p>[4]「物価安定の目標と金融政策運営—量的緩和政策期の日本銀行—」沖縄国際大学『産業総合研究』, 第19号, pp.21-36, 2011年。</p> <p>[5]「テイラー・ルール型政策反応関数の再検討:構造変化と係数シフト」沖縄国際大学『産業総合研究』, 第17号, pp.29-43, 2009年。</p>
--

研究分野

<p>金融政策の実証分析, および金融に関連する諸理論</p>

【Eメール・ホームページ等】

<p>ikemiyagi@okiu.ac.jp</p>

平成30年4月2日現在